

## 令和5年度 第1回 甲賀市総合計画審議会 会議録

---

<b>開催日時</b>	令和5年11月13日（月）18：30から20：30まで
<b>開催場所</b>	甲賀市役所5階 会議室301
<b>出席委員</b>	飯星委員、石野委員、岩倉委員、内田委員、大北委員、大隅委員、金林委員、菊池委員、木村委員、佐治委員、杉崎委員、杉山委員、谷口委員、寺井委員、西田委員、服部委員、原田委員、松村委員
<b>事務局</b>	清水総合政策部長、藤橋総合政策部次長、竜王政策推進課長、橘室長、高市課長補佐、中邨係長、橋本係長、山本主査、中井主事

<b>会議次第</b>	1 開会
	2 あいさつ
	3 委員紹介
	4 総合計画審議会について
	（1）審議会の設置目的及び所掌事務について【資料1】
	（2）会長、副会長の選任について【資料2】
	5 諮問
	6 協議事項等
	（1）審議会の公開について【資料3】
	（2）第2次甲賀市総合計画第3期基本計画策定方針について【資料4】
	（3）市民意識調査について【資料5】
	（4）第2次甲賀市総合計画第2期基本計画実施計画について【資料6】
	7 その他
	8 閉会

## 1. 開会

## 2. あいさつ

## 3. 委員紹介

## 4. 総合計画審議会について

### (1) 審議会の設置目的及び所掌事務について

事務局：資料に基づき、説明。

### (2) 会長、副会長の選任について【資料2】

委員の互選により、会長を服部委員、副会長を内田委員とすることに決定。

## 5. 諮問

副市長：会長へ諮問の依頼文を手渡し。

## 6 協議事項等

### (1) 審議会の公開について【資料3】

事務局：資料に基づき、説明。審議会の公開について決定。

### (2) 第2次甲賀市総合計画第3期基本計画策定方針について【資料4】

事務局：資料に基づき、説明。

A 委員：第1期の成果と課題は記載があるが、第2期の2021年、2022年の成果と課題があれば共有いただき、審議を進めたい。

事務局：ご指摘のとおり、第1期の成果と課題については記載があるが、第2期については、現在庁内各部署へ各施策・事業について、照会をかけているところであり、取りまとめた後、今後の審議会で説明させていただき、素案、たたき台の策定を進められるよう考えている。

A 委員：人口減少を止めるということは非常に大事だと思う。少子化対策を行うのか、増やしていく他の市から人口をもってくるのかの考え方によって、我々が検討する内容が変わる大事なポイントだと思う。過去にどのような形でこの目標を設定されたのか教えていただきたい。

事務局：基本構想に示している人口フレーム87,000人については平成29年6月に策定された際の総合計画審議会で議論し、策定されているものだが、人口減少が避けられない将来であるということを踏まえ、国が示している予測値83,000を抑制し、87,000人にするという攻めの施策については市外から甲賀市へ住んでいただく、市内からの流出を防ぐ中で人口を増やす目標を持っている。一方で守りの施策として、人口が減少する中でどのように行政のサービスを持続していくのか、市民生活の利便性を保っていくのか、人口が少なくなった状態に備えた施策を行っていく、攻めと守りの両面の施策で人口減少対策を行っていくことで、人口フレーム87,000人を示している。

服部会長：人の奪い合いというよりも、人口減少し始めると加速がついてくるものなので、なるべくインパクトを抑え、時間稼ぎをしつつ、その間に対策を取るというものかと思う。

### (3) 市民意識調査について【資料5】

事務局：資料に基づき、説明。

B 委員：調査票は多言語対応されているのか。回収率はどのぐらいか。

事務局：調査票は多言語対応している。回収率は、次回お示しさせていただく。

C 委員：このアンケートは18歳から75歳以上となっているが、これからの時代を背負っていく18歳以下の子どもたちや小さい子の意見は市政に反映されないのか。

事務局：このアンケートについては18歳以上としている。これからの時代を背負っていく18歳以下の若い世代については、タウンミーティングの中に参加していただく、地域のワークショップなど別の方法で意見をきけたらと考えている。

D 委員：ボリュームのある内容となっているが、回収率の目標を何パーセントとしているのか、回収率を上げるための対策は。

事務局：現在の回収率は把握していないが、前回の回収率は37%であり、それ以上の回収率を考え

ているが、広報課で各所へ回収の協力をいただいている。

A 委員：アンケートの結果やその内容がどのように活用されたのかが次のアンケートの参考になるかと思うが、この場で協議できるのか。

事務局：アンケートについては、発送回収済となっているので、この場の意見を今年度の設問には反映できない。市民の意見を聞く一つの手段としてのアンケートはあるため、タウンミーティングやオンライン上のプラットフォーム等で様々な意見を集め、計画に反映していく。

A 委員：前回のアンケート結果はどこにあるのか。

事務局：前回のアンケート結果についてはデータがあるため、次回に提供する。

E 委員：アンケートの回収率は低いと思った。また、私は委員2期目だが、初めての方も多く、かなり雰囲気は固く感じる。1回目だから仕方ないが、それぞれの分野の代表であり、みんなの意見、委員ひとりひとりが発言しやすいよう場所づくりをお願いしたい。

事務局：1回目の審議会では計画の策定方針やアンケートなど事務局から説明する内容が多かった。次回以降についてはアンケート結果や素案を提案予定であり、素案について各分野の方の意見をうかがって審議、活発に委員同士や事務局と意見交換していただける内容になると考えている。

F 委員：オンラインプラットフォームで意見をいただいているという話があったが、どのぐらい意見が届くものか、タウンミーティング参加人数の推移などわかれば教えていただきたい。

事務局：タウンミーティングは毎年度ではなく、総合計画策定前に実施しているが、前回はコロナ禍のため、開催できていない。タウンミーティングの回数、場所、設定はこれから検討する。オンラインプラットフォームは今年度から採用の方法。今までのタウンミーティングだと年齢・性別など偏りがあったという反省から、オンライン化によって、若年層の意見をいただけたらと考えている。百数十名の登録をいただいているが、こちらから総合計画に関する明確な掲示の設定をしておらず、今後活用していく。

服部会長：今日は報告事項が中心であるため、意見を活発に出していただく審議が用意できていない。今後は委員の皆様の意見をたくさんいただきたい。

#### (4) 第2次甲賀市総合計画第2期基本計画実施計画について【資料6】

事務局：資料に基づき、説明。

D 委員：感想になるが、単年度で事業となると、全体を見据えて、この事業は単年度でどこまで落とし込みをするのかが大事であり、事業執行自体が目的にならないように目標設定やすり合わせをしていく必要があると思った。

事務局：職員にとっても個別の事業を実施することが目的化するということはありがち。事業を何のためにやっているのか、事業を実施することにより施策を実現でき、施策を実現することが市の将来像の実現につながるということを徹底していきたい。その目的で各事業のヒアリングを実施している。

C 委員：甲賀市は、この軸で頑張っていく、というのがあまり見えてこない。せっかく色々な業種の方が集まっているので、甲賀市はこの軸でやっていきたい、というものを示し、それぞれの分野でできることについての議論ができれば有意義な時間になるのではないかと感じた。

事務局：第1期、第2期を通して、子育て、地域経済、福祉・介護と重要なテーマがあるが、主要な

施策を明確に示し、それぞれの分野で意見を賜り、甲賀市らしい事業・施策を作っていければと考えている。

G 委員：専門分野の方でという話があったが、例えば、子育てのことで専門分野以外の方がどう感じているかが大事で、それぞれの立場でそれぞれの意見が反映できるような審議会にしていただけたらと考えている。

事務局：計画を作っていく中で市民参画の一つとして、総合計画審議会の中では各部門の方に意見を聞く。アンケートであるとか、オンラインプラットフォームなど、さまざまなチャンネルを使うことによって意見をいただくなど、多様な年齢、分野の方の意見を聞くことで進めていきたい。

B 委員：既存の仕組みの中で、集落のリーダーが地域住民の意見を聞いて、行政にあげていくボトムアップをするような行政が住民の声を聴くための仕組みはあるのか。

事務局：概ね小学校区エリアで自治振興会という組織を作っており、市の職員がそれぞれの地域に入り、将来ビジョンを一緒に作っている。地域ごとのビジョンを大きな総合計画に入れ込んでいくことによるボトムアップ、全体計画に反映させたいと考えている。

服部会長：行政はどうしても幅が広い、住民が見るところは部分的、どうしてもかみ合わないところがある。ボトムアップでも埋めていくのが難しい部分がある。何とかインクルーシブな方法で進めたいが、かかる時間や限られた人的リソースの中でさまざまな意見をいただきながら、より意見を集約できるやり方を探っていきたい。

## 7 その他

事務局：次回の会議は2月を予定。

## 8 閉会